

(様式2)

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣北高等学校

学校番号

21

I 自己評価

1 学校教育目標	人間尊重を基調とし、智・徳・体の調和のとれたたくましく豊かな人間性をはぐくみ、高い志とグローバルな視野を持って人類・社会に貢献できる有能な人材を育成する。そのため、“誠実・友愛・努力”を本校の生活信条とし、その具現に努める。	
2 評価する領域・分野	◇教務（教育課程・学習指導）	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 生徒対象のアンケートにおいて「熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる」「専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる」「授業の教え方や説明がわかりやすい」のいずれに対しても肯定的評価（A・B評価）が約90%と評価が高い。 保護者対象のアンケートにおいて「授業をとおして学力が向上するように指導している」に対しても肯定的評価（A・B評価）が約90%で評価が高い。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の実態に即した授業展開により主体的・意欲的に努力する姿勢を育て、確かな学力の伸長を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 教職員同士の相互評価や保護者等外部の方の授業参観の実施 少人数授業、目的別選択授業の実施 週末及び長期休業における計画的な課題の提示 個別の補充指導の徹底 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業評価、外部評価を受けての授業改善。 (2) 少人数授業（1年英語）選択科目（種目）別授業、目的別授業（3年理系国語、3年数学）の実施 (3) 基本的生活習慣の確立と学習意欲を高めることを目指して、保護者懇談、教育相談週間、1年生への初期指導を実施 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒による授業評価 (2) 生徒及び保護者等による外部評価 (3) 家庭学習時間調査（年間3回） (4) 外部模試による過年度比較 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 外部評価を7月に実施し、個人、教科、学年で分析 授業評価を7月と11月に実施。教科、個人で分析し、授業改善に活用する。 学習課題を、教科と学年会が連携して、生徒の実態に応じた内容・量を決定し、目的を生徒に提示した。 家庭学習時間調査を4月、6月、11月に実施学年会で分析し、学習習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の授業満足度 ②保護者の授業に対する満足度 ③家庭学習の取り組み状況 ④過年度比較による学力 	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/>A B C D ② <input checked="" type="radio"/>A B C D ③ A B <input checked="" type="radio"/>C D ④ A <input checked="" type="radio"/>B C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒及び保護者ともに本校の授業に対する満足度は高く、生徒の実態に即した授業展開が行われていると考えられる。 ○授業改善に向けて、生徒による授業評価を受けて教科内での協議を行い、課題の焦点化を図り、後期の授業に取り組んだ。 ○外部模試等による学力の過年度比較においては、教科・科目での若干の変動が見られたが、全体としては大きな変化がなかった。 ▲昨年度に引き続き、家庭学習習慣が身に付いていない生徒の増加がみられる。 	
12 来年度に向けての改善方策		
<ul style="list-style-type: none"> 教科として学力向上を図る具体的な方策を検討し、学力を伸ばすわかりやすい授業とアクティブラーニングを取り入れた授業に努める。 低学年での家庭学習習慣を定着させるために、各教科において課題の内容や量を吟味する。また、教科バランスについては学年会を中心として計画し、生徒に提示する。また、生徒へはその意義や目的を十分伝えるとともに、課題を通して学力向上につながることを、最後まで粘り強く指導する。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月27日

【意見・要望・評価等】

- ・本校生徒は、真剣に、かつ生き生きと学校生活を送っている。先生方も、とても熱心に指導していただき、学校全体で高い目標を共有されていて、学校の総合力として素晴らしいと思います。
- ・生徒は、学校での授業や課題に誠実の取り組み、家庭での学習につながっていると思います。
- ・部活動など、学習以外の活動もしっかりと取り組んでいる姿勢が見られることから、生徒自身が自己の学習を振り返り、自ら課題を見つけ、学習する時間をなかなか取ることができないのではないかと想像する。自ら課題を見出し、取り組む姿勢は理想だが、改善策にもあるとおおり、ある程度学校で課題を与え、取り組むことで、家庭学習の習慣化へとつながると考える。
- ・熱心に学習指導に取り組まれていると思います。ただ、生徒の学習意欲は学内外で培われていますので個々の生徒に沿った個別的な指導の工夫が求められているものと思われます。

2 評価する領域・分野	◇研修	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒対象のアンケートにおいて、「熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる」の評価が高いものの、それに比べて、生徒一人一人への対応（教育相談や進路相談）への評価はやや低い。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇人間性を磨き、専門性を高め、教職員の資質向上を目指した研修の充実を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・研修係を位置づけ、総合教育センターなどの研修への参加を促す。 ・研究授業や授業評価を実施し、教科会を活発化して、授業改善に努める。 ・進路指導、生徒指導、教育相談、健康促進の各分掌が教職員のスキル向上を目指した研修を計画的に実施する。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生徒による授業評価と保護者等による外部評価 (2) 研究授業の実施 (3) 保護者による授業参観 (4) 各種研修会の実施	(1) 外部評価 (2) 授業評価 (3) 教員の自己評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び保護者のアンケート（年1回7月）と授業評価（生徒）を（年2回7月・11月）実施し、個人・教科・学年・分掌で分析し改善 ・各教科年1回の研究授業を実施 ・保護者の授業参観の機会を年6日間実施し参加者に授業評価を依頼 ・進路、教育相談、救急法などの研修会開催 	①外部評価 ②授業評価 ③教員の自己評価	(A) B C D (A) B C D A (B) C D
11 成果・課題	○生徒アンケートにおいて「熱心な学習指導・生徒指導」で89%、「専門的知識が豊富で、授業内容に信頼」92%、「授業の教え方や説明がわかりやすい」で86%、保護者アンケートにおいても「授業をとおして学力が向上するように指導」の項目で88%の高い評価を得ている。 ○教科毎に設定した生徒による授業評価の評価項目により、教科内での協議が活発となり、授業改善を恒常的に行うことができた。 ▲多忙により、授業以外の生徒と接する時間（部活動や補習、個別指導など）確保と、職員研修会との両立が困難な状況にある。	
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・外部評価と授業評価を行い、教員個々、教科、学年、学校全体の研修の機会を積極的に設ける。 ・授業研究においても、今年度同様に教科ごとに評価項目を設定し、各教科会で授業改善に取り組むとともに、各教科年1回の研究授業を実施して相互参観を行い、教員個々の指導力の向上に資する。 ・SGH課題研究に関する外部講師による職員研修や、教育相談や進路研究など生徒の実態に応じた研修会を実施し、教職員のスキル向上に取り組む。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月27日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員のスキル向上に向け、多忙な業務の中、様々な取り組みを行っていることがうかがうことができ、評価できる。 ・「授業以外で生徒と接する時間」も間接的な学習指導だろうと思います。 ・変化する大学入試制度に対応した新しい情報の収集、教員の分析を行っていただき、生徒の進路指導をより細やかにお願いします。

2	評価する領域・分野	◇総務（育友会・学校行事・国際交流）				
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会や学校行事に関して保護者の関心・期待が高く、各種行事への参加率も高い。 ・保護者対象のアンケートにおいて肯定的評価が高い。 				
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会と学校の綿密な協力によって教育成果の向上を図る。 ・学年育友会において本校教育について理解を深める機会とする。 ・国際交流を円滑に行いグローバルな人材を育成する。 				
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年育友会において学年委員・学年会とて協力し内容充実を図る。 ・契約審査会等育友会役員に参加いただき、積極的に意見を求める。 ・学校評議員会の開催で外部委員に本校教育について理解を深めてもらう。 ・国際交流活動の機会や情報を生徒や保護者に提供する。 				
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標				
	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒による授業評価と保護者等による外部評価 (2) 役員会・実行委員会・学年育友会の開催 (3) 育友会研修会を学年育友会で開催する。 (4) 国際交流に係る講演会の実施 (5) 各種国際交流活動(交流会・留学等)の実施、支援 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 外部評価における評価 (2) 教員の自己評価 				
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価			
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び保護者のアンケートと授業評価(生徒)・学校評議員による評価を実施し、分掌・教科・学年で分析 ・「塵城カレンダー」「育友会だより」の発行等で保護者へ行事予定、学校の近況や進学に関する情報等を伝達できた。 ・国際交流事業に重点を置き、グローバルな人材の育成を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①外部評価 ②学校評議員評価 ③教員の自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> Ⓐ B C D A Ⓑ C D A Ⓑ C D 			
11	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケートにおいて「学校は、保護者が授業や学校行事等を参観する機会等をよく設けている。」の項目について保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と評価している。 ○高校説明会において多数の中学生・中学校保護者の学校見学があり、積極的に受け入れた。 ▲ふるさと教育週間に開催される各種講演会等に、在校生保護者の参加は多い。講師紹介を充実して行うなどして、より広報したい。SGHの紹介(パネル等)は概ね好評であった。 			<p>総合評価</p> <p>A Ⓑ C D</p>	
12	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度同様に外部評価と授業評価を行い、教員個々、教科、学年、学校全体の振り返りの場とする。 ・育友会と同窓会の連携を図り、来年度部活動支援を結束して支援したい。 				

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月27日

【意見・要望・評価等】

- ・本校の学校行事への保護者の参加、関心の高さは素晴らしいと思います。
- ・育友会大学見学や、凧揚げ大会での豚汁の振る舞い、北高祭でのバザー出店など、他の保護者の方と楽しんで参加させていただいています。
- ・開かれた学校となっており、育友会など、保護者との連携もしっかりできているように感じる。
- ・いろいろ工夫されて取り組まれていると思います。その中で、生徒同士の関係にどのような成果がもたらされたのか、それを確認・評価していくことも大切だろうと思います。

2 評価する領域・分野	◇進路支援（進路指導）		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒対象アンケート「生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている」について、A・Bの肯定的評価85%、保護者対象アンケート「生徒の進路希望に沿った適切な進路指導が行われている」について、A・Bの肯定的評価79%、また「学年育友会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている」についての肯定的評価は89%であり、生徒・保護者ともに高評価がなされ、本校の進路指導への理解が得られていると思われる。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇キャリア教育を通して、高い志と幅広いグローバルな視野を持って、主体的に進路を選択決定できる能力、進路実現に必要な能力と態度の育成に努める。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・進路支援部が各学年会と連絡・連携を図り、3年間を見通した適切な進路行事等を企画、実施する。学年間で進路に関する指導経験を共有し、重点目標の達成を目指す。 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> (1) 計画的な進路支援・進路学習・進路情報の提供に努め生徒の志望と資質を踏まえ、将来を見据えた適切な進路指導を推進する。 (2) 日常の高いレベルの授業及び平日の補習の実施自習室の開放、土曜日の特別講座の開講 3年生の国公立大学個別学力検査直前までの指導等を通して、進路実現に向けての学力が身に付くように支援する。 (3) キャリア教育を推進し、高い志とグローバルな視野を持つよう、卒業生等による講演会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 進路希望調査による高い志を持つ生徒数 (2) 補習、土曜特別講座の受講希望者数 (3) 各種講座、ガイダンス等への参加数 (4) 生徒及び保護者によるアンケートの結果 (5) 大学進学者数（東大・京大・医学部医学科20人、難関大学50人合格） 		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・2、3年対象の進学講演会、大北先輩講座、学部・学科別ガイダンス、名古屋大学説明会、グローバルセミナー等の実施 ・東京大学見学会（1、2年）、京都大学生との懇談会（3年フィールドワーク）の実施 ・オープンキャンパス、医療看護系等インターンシップへの参加の勧め ・各学年進路担当者との打合せと学年毎の企画、運営 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒はキャリア教育を通して人生設計を描くことができるか。 ②目標達成に向けて最後まで取り組む生徒を育成しているか。 ③進路支援部と学年会との連携は十分機能しているか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p>	
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○「進路だより」「進路のしおり」、進路情報誌の配布、進学講演会、学年集会等を通して、生徒各自の進路意識の高揚を図ることができた。 ○3学年においては、早朝・放課後補習・土曜特講等への参加や、フューチャールーム等での自習をする姿が多く見られ、進路実現に向けた学習を計画的に行うことができた。 ▲1・2年生における東京大学・京都大学を志望する生徒数の減少、及び自宅学習時間の減少が見られる。 ▲来年度以降、各学年及びSGH推進部とのさらなる連携強化が必要となろう。 ▲高大接続、大学入試改革に関する情報収集、提供が不十分であった。 		<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各考査、外部模試の学力分析を通して生徒個々の学力を把握するとともに、教育相談・アンケート・調査等による情報の収集に努め、必要な進路選択の基礎知識やアドバイス、進路達成に必要な学力・技能を知らせていく。そのためにも、外部の各種研究会に積極的に参加したい。 ・大北先輩講座等の企画を通して、東京大学・京都大学の魅力について伝える。可能であれば本年度実施した「現役女子東大生母校訪問」を本校卒業生が在籍している間は継続したい。 ・各学年との連携を密にするとともに、SGH指定校としてのSGU推薦入試制度に関する情報の収集提供及び推薦規定等の入試対策を考えたい。 ・不定期発行であった「進路だより」の計画的・定期的に発行し、進路支援情報の提供に努めたい。 ・高大接続、大学入試改革に関する職員研修会を計画したい。 			

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月27日

【意見・要望・評価等】

- ・高い目標の共有、先生方の熱心なご指導、そしてOBの方の応援など、個人の力も凄いが、チームワーク（学校力）が徹底して凄いと思います。家庭・地域が連携して、さらにできることについて考えていきたい。
- ・より多くの生徒が東大、京大を実際に自分の目で見、大垣北高のOB、OGと触れ合うことは、大変刺激になるので、ぜひ推進し、生徒達の目標としていただきたい。
- ・SGHでの取り組みが継続できるよう、SGUへの進学を押し進めるなど、SGH指定校の特色が活かされるとよい。
- ・細かい進路指導をしすぎるとかえってハードルを高く感じてしまう結果を生みます。進路指導の前提にある「生徒の将来の希望」をいかに育てるかといった点が今後の進路支援のキーポイントになるように思われます。

2 評価する領域・分野	◇生徒指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒・保護者対象のアンケートでは「マナーや社会規範」「服装・頭髪」「交通事故」「いじめ」「体罰」「情報モラル」の指導のいずれについても約80%以上の肯定的評価が得られ、本校の生活指導に対して高い理解が得られていると考えられる。しかし、ボランティアに関する評価がやや低い。保護者の「わからない」という回答の多さを含め、広報の必要性を感じる。また、特に「情報モラル」や「いじめ」に関しては、折を見て繰り返し指導していく必要がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	自ら考え判断し、他を思い、不屈でたくましく豊かな人間性を備えた心身共に健全な生徒の育成をめざします。また、生徒の自主的な活動を通して、友愛に満ちた校風をつくります。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部や健康促進部、学年会、生徒会、生活安全委員会との連携体制 ・警察、育友会との連携体制 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 生活充実講話として「交通安全」「情報モラル」「性」「薬物」「人権」に関する講話や携帯電話に関するLHRを通して、人権及び生命を尊重する意識や社会人になるためのモラルの育成を図ります。</p> <p>(2) 身だしなみ指導、登校指導、交通安全啓発活動及び挨拶運動を通して、規範意識や交通安全意識の高揚を図るとともに、思いやりとしてのマナーの育成・向上を図ります。</p> <p>(3) 部活動や生徒会活動を通してたくましく豊かな人間性を養うとともに、他学年との人間関係を構築します。</p>	<p>(1) 「生徒実態調査」(6月・11月実施)、「生徒及び保護者によるアンケート」の結果で達成度を判断する。また、講話後の感想文等で心の成長を確認する。</p> <p>(2) 「生徒及び保護者によるアンケート」のルール、服装の項目の結果で達成度を判断する。</p> <p>(3) 「生徒及び保護者によるアンケート」の部活動、学校行事、生徒会活動の項目の結果で達成度を判断する。</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>①・外部講師を招いて各種講演会を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯LHRを年間行事に位置づけ、1・2年生に実施 <p>②・職員による毎朝の交通安全指導とMSリーダーズによる月2回の交通安全および挨拶運動を実施</p> <p>③・生徒指導部通信を発行して、部活動、学校行事での活躍や生徒の善行を広報することによって、自主的、積極的な活動を奨励</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回の校外清掃、月2回の校門周辺の清掃活動を実施 ・学校祭において、部活動推進企画を作成・発表 	<p>①生徒の内面に訴えかける講演、LHRであったか。生徒の通学実態、携帯等の使用実態が適切であったか。</p> <p>②生徒の通学状況・身だしなみが向上したか。さまざまな場所で挨拶が飛び交うようになったか。</p> <p>③部活動・学校行事への積極的に参加する割合は高いか。活動を通して、様々な人と交流できたか。</p>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>Ⓐ B C D</p>
11 成果・課題	<p>○どの講演会も狙いが生徒にしっかりと伝わっていると判断できる感想が多かった。</p> <p>○学校周辺では一旦停止・左右確認・左側通行など交通ルールを遵守する姿が多く見られた。また、並列運転への苦情も減少した。</p> <p>○身だしなみのひどい生徒は見かけず、校内各所で明るく挨拶を交わす姿が多く見られる。</p> <p>○部活動や学校行事に積極的に打ち込む姿が多く見られ、技術のみならず規律についても生徒同士で高め合おうという意識が感じられる。</p> <p>▲今年度の交通事故件数は20件で、昨年度比6件減(12月末現在)だが、さらに減らしていく指導が必要である。</p> <p>▲SNS等での情報モラル違反は昨年比に大幅に減少したが、非公開のSNS等でのトラブルやスマホ依存が心配である。</p>	
総合評価		
Ⓐ B C D		

12 来年度に向けての改善方策案

- ・今年度と同様に生活安全委員会や育友会、外部機関（警察・交通安全協会）とも連携し、様々な場面で交通安全教育を推進していく。職員による毎朝の交通指導や生徒による月2回の交通安全運動は継続して実施し、『交通事故ゼロ』を目指した交通事故防止運動をより一層強化する。
- ・身だしなみやマナーに関する指導については、現在の取り組みを今後も継続するとともに、スマホやSNSの適切な使用等を通して、他者への配慮等、人権意識についての指導も共通認識をもって全職員で実施していく。

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月27日

【意見・要望・評価等】

- ・服装等マナーについて、非常によい状態であると思います。
- ・校内外で見かける生徒の姿は、身だしなみの乱れなど見られず、生活が安定している様子がうかがえる。スマホ依存など、どの年代にあっても注視すべき課題があり、生徒のみならず、学校と家庭での問題意識の共有が必要と考える。
- ・スマホによる個人情報も流出などについて、生徒への指導、研修をお願いします。
- ・十分なほどに丁寧に取り組まれていると思います。

2 評価する領域・分野	◇生徒（特別活動）	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の評価において、学校行事・生徒会活動・部活動の項目ではA、Bの割合が高い。しかし「LHRの時間が今後の自分に有意義なものになっている」「ボランティア活動の機会を提供している」の2つの項目についてはCの割合が高い。LHRの運営のあり方やボランティア活動の機会の提供の仕方について考え直す必要がある。 ・保護者の評価では、ボランティア活動において、E「わからない」の割合が非常に多い。他の活動と比較すると、ボランティア活動は回数も限られ、また目立つ活動も少ない。機会を最大限活用し、呼びかけや報告を充実させる必要がある。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学校の一員としての自覚を深め、生徒会活動を通して学校づくりに積極的に参加する態度を養成する。 ◇生徒一人一人の個性を生かした生徒会活動を目指す。生徒から出た意見を生徒会活動に反映させる。 ◇明確な目標を持ったボランティア活動を目指す。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会と協力したHR活動の充実 ・各種委員会活動が積極的な取組になるための支援 ・ホームページや生徒会機関誌などを通じて広報活動を強化する。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 学校行事へ生徒一人一人が意欲的に参加するために意見箱の積極的活用やアンケート調査をするなど、生徒から出た意見を生徒会活動に反映させる。 (2) ホームページや生徒会機関誌『北高街道』などを活用し、生徒会の活動を校内外に広報する。 (3) 人権活動に関連したボランティア活動を行う。 (4) LHR実践例の紹介	(1) 行事の際の生徒・職員対象のアンケート集計結果 (2) 学校ホームページへの生徒部にかかわる記事の掲載数やその内容。 (3) 生徒会機関誌『北高街道』の発行数やその内容 (4) 人権活動にかかわるボランティア活動の具体的実績 (5) LHRにおける研究授業の実施	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部が行った「凧揚げ大会」に関するアンケートにより、凧揚げ会場やルールの見直しを行った。 ・経年研修にてLHRの研究授業を行う教師に対する授業立案・授業後講評を行った。 ・ボランティア活動としてペットボトルのキャップ集めを行った。 ・ホームページや生徒会機関誌などを使って、校内外に対し、生徒会活動を広報した。 	①生徒が主体的に生徒会行事に取り組むことができたか。 ②年間計画に従って、LHR活動に取り組むことができたか。 ③ボランティア活動への参加と広報を行うことができたか。	A (B) C D A B (C) D (A) B C D
11 成果・課題	○ペットボトルキャップの売却による利益を認定NPO法人「世界の子供にワクチンを」日本委員会を通して、東南アジア諸国に寄付する活動を行った。全校に呼びかけ、各クラスで回収されたペットボトルキャップの総数は2万個を超えた。 ○学校行事ごとに活動内容をホームページに掲載することができた。また、生徒会機関誌『北高街道』や昼休みに放送している生徒会アワー「北高タイムGO! GO! GO!」において、民族問題・政治問題を抱えている東南アジア諸国の現状を紹介し、生徒一人一人が世界に向けて何ができるのか考えるきっかけを作ることができた。 ▲LHRノート「青春を探求しよう」の利用度が少なかったようである。また、担任独自のアイデアを生かした内容もあまり見られなかった。今までのLHRの成功例を調査し、担任に伝えていく必要がある。	
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・LHRノート「青春を探求しよう」活用例や担任独自のアイデアを生かしたLHRの紹介 ・担任同士の実践例交流も視野に入れる。 ・LHRを通して生徒の自主性を育む。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成 28 年 1 月 27 日

【意見・要望・評価等】

- ・生徒は、学校行事や部活動など、学習と両立するのは大変かもしれないが、文武両道を積極的にやり遂げており、素晴らしいと思う。
- ・生徒会活動が活発で、自主的な活動がうかがえる。ホームページ更新も頻繁となり、より対外的な広報活動が行われていると思われ、評価できる。
- ・凧揚げ大会等、生徒達の自主運営による活動を継続してもらいたい。
- ・LHRやボランティア活動などをいかに活性化させるか。大人社会の協働において、協議能力や指導力は不可欠なものですから、それとどう結び付けるかが肝要だと思います

2	評価する領域・分野	◇健康促進（健康・安全教育）		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果より、生徒の半数（57%）は、地震・台風などの対応マニュアルを理解しているようである。 ・昨年度より生徒は、掃除が行き届いていると感じているが、半数を超えていない。（44%） 		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇非常変災時におけるマニュアルを生徒にしっかりと理解させ、命を守る行動ができるよう徹底を図る。 ◇校内をきれいにする意識が自然に持てるよう指導していく。 ◇自分の健康管理ができる。（生徒、職員）		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・避難マニュアルを説明し、理解させる。 ・校内でゴミを出さない指導を継続していく。 ・保健室を有効活用し、健康状態を把握する。 		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) LHRや命を守る訓練で、避難マニュアル等を説明し、理解させる。 非常災害時、各種警報発令時における非常食・水等を全校生徒分備蓄する。 (2) 平常掃除を中心とした指導の徹底を図る。定期的な安全点検のみだけでなく、平常時も意識する。 (3) 「健康通信」による先読みした情報の提供により、予防を主眼においた健康指導を図る。	(1) 非常災害時、各種警報発令時の備蓄品の使用方法が理解できたか。 (2) 校内美化を意識しゴミを減らすことができたか。先読みした安全点検を意識したか。 (3) 自らの健康管理を予防の観点から行動できたか。		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・非常災害時、各種警報発令時に必要とされる備蓄品を完備しておく。使用した場合は直ちに補充する。 ・ゴミの分別減量においてゴミの集積庫における指導及び全職員による呼びかけをする。 ・感染症等の職員の共通理解と組織的な対応を図る。 	①予防する意識が生徒に浸透したか。 緊急災害時の備蓄は最低限あるか。 ②ゴミの分別減量はできたか。 ③職員の感染症に対する警戒心ができたか。	A (B) C D (A) B C D A (B) C D (A) B C D	
11	成果・課題	総合評価		
	○非常変災時における備蓄品、本校が避難所になった場合の運営機材は完備できたが、あくまでも生徒・職員の3日分にすぎないため、その後の運営については、県・大垣市と連携し、準備検討が必要である。 ○熱中症や感染症に対して、予防を前提に行動する生徒・職員が増えた。今後も治療より予防を大切にしたい指導を心がけていきたい。 ▲生徒の掃除をする姿勢はできているが、掃除内容が徹底できていないため、汚れている場所がある。職員の意識も高めていく必要がある。ゴミの減量化が進んでいないのが現状である。	A (B) C D		
12	来年度に向けての改善方策案			
	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も「健康通信」を中心に、熱中症や感染症に対して、予防を前提に行動する生徒・職員が増えるよう取り組んだ結果、発症者が減少してきた。 ・来年度は、生徒・保護者・地域住民へ防災マニュアル・避難所開設、運営マニュアルを配布、説明をして実際に起こった場合に迅速に、慌てず行動できるよう準備しておきたい。 			

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月27日

【意見・要望・評価等】

- ・よく取り組まれていると思います。
- ・緊急時の対応など、実際に起こりうる事態を予測し、対策を立てることは非常に大変なことであると想像する。不測の事態に備え、県や教育委員会の指針のみならず、実際に被害に遭われた地域から対策を学ぶことなどができるとよいと考える。
- ・防災倉庫の有用的な活用を毎年、企画できたらいいと思います。ハード面だけでなく、ソフト面での充実をお願いします。

2	評価する領域・分野	◇教育相談		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 保護者対象のアンケートにおいて、保護者の6割以上が「保護者の悩みや相談に適切に対応してくれる」と答え、その割合は昨年度より5ポイント程度増えている。一方生徒対象のアンケートにおいては「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い」という問いに対して67%の生徒が肯定的にとらえているが、その割合は昨年度より10ポイントほど低下している。 		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	教育相談で自立の心をそだてよう ～生徒理解と支援の充実～ <ul style="list-style-type: none"> ○集団の中での発達支援を通して育てる。 ○学習支援・進路支援を通して育てる。 ○HR活動・特別活動を通して育てる。 ○心理検査等の活用を通して育てる。 		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会を中心とする日常の継続的教育相談活動 ・相談職員と学年連携による定期的教育相談活動 		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 定期的教育相談の実施 (2) 教育相談部による必要に応じた教育相談の実施	(1) 保護者・学校評議員による外部評価 (2) 生徒・保護者によるアンケート集計結果		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・年間2回の教育相談週間の実施と学年独自の個別懇談の実施。 ・支援が必要な生徒に対する相談の実施。 ・スクールカウンセラーの活用 ・職員研修会の実施 	①担任を中心とする教育相談により早期対応ができたか。 ②担任や学年と係の連携がうまくなされたか。 ③教育相談的能力が向上したか。	(A) B C D (A) B C D A (B) C D	
11	成果・課題	○学年会・担任との連携を密にし、教育相談が必要な生徒に対する早期対応ができた。また、スクールカウンセラーに助けられた場面が多数あった。 ○昨年度から心理テストとして1年生「シグマ」2年生「i-check」を実施した。結果を基にHR担任等とより深い相談できるきっかけとなった。 ▲生徒を多面的に観察し、早期対応に心がけたが、人の心に関する問題の解決は容易ではなく、成長を見守るだけのケースもあった。 ▲大きな問題を抱えた生徒が何人かおりその対応に労力を割いた結果、それ以外の生徒に対する対応が手薄になってしまった。		総合評価 A (B) C D
12	来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒は自立心に富み、悩みも一人で抱え込む傾向がある。その心の問題を早期発見・解決するのは容易ではないが、担任と関係職員の連携を密にし、研修会等により、職員一人ひとりのカウンセリングマインドの深化を図る必要がある。生徒実態調査及び心理検査のさらなる有効活用方法を検討したい。 			

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月27日

【意見・要望・評価等】

- ・「教育相談が必要な生徒に対する早期対応ができた。」とのことで、成果がうかがえる。
- ・生徒一人一人に向き合うことはとても大変なことです。今後とも、アンテナを高くして取り組んでほしいと思います。
- ・個別に対応したケアがなされていて、素晴らしいと思います。

2	評価する領域・分野	◇図書情報館	
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 生徒対象のアンケートにおいて「生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。」という項目では約85%の生徒が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答している。昨年より2%減少した。進路情報が図書で得られるということを知らない生徒もいるという情報を得たので、今後はこの点についても広報を図っていく。 生徒対象・保護者対象のアンケートにおいて、「施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる」の項目では、生徒の97%、保護者の92%が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答している。保護者の方にも開かれた図書情報館をめざしたい。 	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇館内展示の工夫や文化祭への参加など、図書委員会の活発な活動の推進 ◇新着図書案内などを利用した広報活動の活発化 ◇資料などの提供の便宜を図ることによる、授業・SGH・受験対策への支援	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 図書情報館部の中に、読書指導、管理調査、利用指導、資料、視聴覚授業支援の各係を作り、重点目標を達成するための担当者をおいた。 	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7	達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 館内展示POPの作成や文化祭への参加など、図書委員会の活発な活動を支援する。 (2) 新着図書案内の配布、読書週間の、放送による朗読など、広報活動を充実させる。 (3) 資料等の提供の便宜を図ることにより授業及び面接・小論文対策、SGHの支援を行う。		(1) 図書委員一人ひとりが自覚を持って取り組み、生徒だけでなく、保護者にも図書委員会活動に関心を持ってもらえたか。 (2) 生徒の興味関心を深めることができ、図書情報館利用の推進ができたか。 (3) 生徒の購入希望などに応えることができたか。	
8	取組状況・実践内容等	9	評価視点
<ul style="list-style-type: none"> 文化祭において古本市、貸出カードの作成や「私の好きな一行」の展示を実施。生徒や保護者、先生方に図書情報館に足を運んでもらう一助とした。 学校行事に対応した本や卒業生の本の紹介をする展示スペースを活用した。(修学旅行・文化祭・凧揚げなど) 1、2年生に読書感想文指導を行い、県の読書感想文コンクールに参加。課題読書部門、自由読書部門の両方で最優秀賞を受賞した。今年度より、麩城の「あかねさす」のページに掲載し、全校生徒に配布 		10	評価
		①重点目標達成に意欲的に取り組むことができたか。	Ⓐ B C D
		②生徒や保護者の要望に適切に対処することができたか。	A Ⓑ C D
		③課題に対して、組織的に取り組むことができたか。	A Ⓑ C D
11	成果・課題	総合評価 A Ⓑ C D	
○図書選定委員会に保護者の方に参加していただき、保護者目線のご意見をいただくことができた ○新着図書案内の全員配布により、生徒だけでなく保護者にも図書情報館の利用を促すことができた。 ○生徒の興味・関心を高めるための広報活動を推進し、生徒の力を活用した委員会活動の充実ができた。 ▲新聞スペースを変更したことにより、館内が広く使えるようになったが、まだ使用目的が定まっておらず、十分に活用できなかった。			
12	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 読書週間の、放送による朗読を継続し、さらに生徒の読書意欲を掻き立てられるよう、広報活動に力を入れていきたい。 今年度は新聞スペースの変更、来年度に向けては、検索コンピュータの廃棄が決定しており、館内にかなり広いスペースが確保できる見通しがある。昨年度、保護者の方より「図書館の利用において、従来型の閲覧に加え、グローバル教育に伴って議論や、論文の技術取得を指導する場として活用できるとよい。」というご意見もいただいている。今後、図書館の情報センター機能の充実に向けて、館内にコミュニケーションスペースを設置する等、検討していきたい。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月27日

【意見・要望・評価等】

- 資料の閲覧に限らず、利用しやすく工夫されていると感じます。
- 近年の図書館の変容もありますので、コミュニケーションや共同作業のスペースをぜひ確保していただきたいと思います。
- 最新の書籍が充実しており、生徒達も幸せです。ぜひ、今後ともピーアールして、利用促進してください。

評価する領域・分野	◇SGH推進	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	◇生徒意識調査（1月下旬実施）：将来、3か月以上の留学をしたいと考えている生徒が5割に上り、国際社会に対する意欲が向上した。 ◇保護者アンケート（1月中旬実施）：SGHプログラムへの賛同の意識は非常に高く、家庭内のグローバル意識の高まりもみられる。 ◇教職員アンケート（1月中旬実施）：グローバル人材育成の意義は共通認識されており、クラス生徒の能力把握も進んでいる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	【1年生・SGH課題研究1】 ・グローバルな諸課題に対する興味・関心を喚起する。 ・課題発見力・課題設定力を身に付けさせる。 ・他者と協力して課題解決を図る方法を身に付けさせる。 【2年生・SGH課題研究2】 ・多面的なものの見方・考え方を身に付けさせる。 ・論理的な思考力・表現力を身に付けさせる。 ・多様な文化や価値観を理解し、国際社会に貢献する意欲を喚起する。 【1・2年生共通】 ・高いコミュニケーション力（日本語・英語）を身に付ける。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制（校外連携を含む）	・企画委員会・職員会議を通じたSGH事業への全職員の共通認識の醸成 ・学年会との連携（意見吸収と「SGH課題研究」推進に関する意思疎通） ・各教科のSGH化に向けた教科会との連携強化 ・地元グローバル企業のSGH事業に対する理解と協力の取り付け ・グローバル化を図る大学・学部に対する理解と協力の取り付け	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 「SGH課題研究1」（2単位）の実践 (2) 「SGH課題研究2」（2単位）の実践 (3) 言語技術指導の実践（日本語） (4) 英語授業改善の実践 (5) 各種会議におけるSGH事業の発信 (6) 「SGH通信」等を通じた積極的な広報活動 (7) 海外フィールドワーク等外部訪問事業の実施 (8) 企業連携・高大連携の推進	(1・2) 生徒意識調査・保護者アンケート 教職員アンケート・各事業評価（生徒） (3) 生徒アンケート等 (4) 生徒アンケート、外部検定試験結果 (5) 教職員アンケート (6) 教職員アンケート・マスコミ報道回数 (7) 生徒アンケート等 (8) 外部（企業・大学教官・留学生）講師来校回数等	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・「SGH課題研究」（1年生・2年生）の全員対象実施 言語技術指導・英語授業改善の実践 ・SGH事業実践の校外外への広報（「SGH通信」や新聞報道等マスコミへの広報） ・外部機関（企業・大学・国際機関等）との積極的な連携	①生徒はグローバル人材としての能力を身に付けることが出来たか。 ②SGH事業の目的や内容が的確に伝わり、理解が得られているか。 ③SGH事業に、多くの人材が意欲的に関わっていただけているか否か。	A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	○生徒は、グローバル社会への興味・関心を高めており、留学への意欲を示す生徒が増えている。こうした意識は、保護者の意識にも変容をもたらしている。 ○教職員の中に、教職員間及び外部の人材と協働して、グローバル人材を育成しようとする意識が高まっている。 ▲教科のSGH化については、全校（全教科）規模での実施とはなっていない。 ▲「SGH課題研究」における提案が漠然とした内容にとどまっている生徒が多い。	
12 来年度に向けての改善方策案 ・「SGH課題研究」での成果を深化させるため、グローバル課題に対する知識獲得機会を意図的に増やす。 ・「SGH課題研究」にアントレプレナーシップ教育を導入して、具体的な提案ができる生徒を増やす。 ・教科会との連携を強化して、「アクティブラーニング」の研究及び教科のSGH化を推進する。 ・SGH初年度生徒の卒業に向けて、進路支援部との連携を強化して、新しい入試への対策を強化する。 ・事業評価の方法を確立し、合理的な改善プロセスを確立する必要がある。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月27日

【意見・要望・評価等】

- ・SGHの推進により、海外でも活躍できる人材育成、また、異国の文化に触れることにより、生徒の自信や自立につながると思います。
- ・コミュニケーション能力の前に、地域社会の課題を学ぶことが大事だと思います。
- ・今後の活動に大いに期待している。SGHを前面に打ち出し、高校選択の際の選択肢の一つとなるよう位置付けられるとよい。また、SGUへの関心を持つことができるよう、指定校枠など導入し、連携して学んでいくことができるとよいと考える。